

「高尾山遠征と八丈島合宿の調査結果を比較して」

資料作成 田崎

本項は、高尾山で記録した昆虫と八丈島のものを簡単に比較して、両地の地理的特異性について考察するものである。

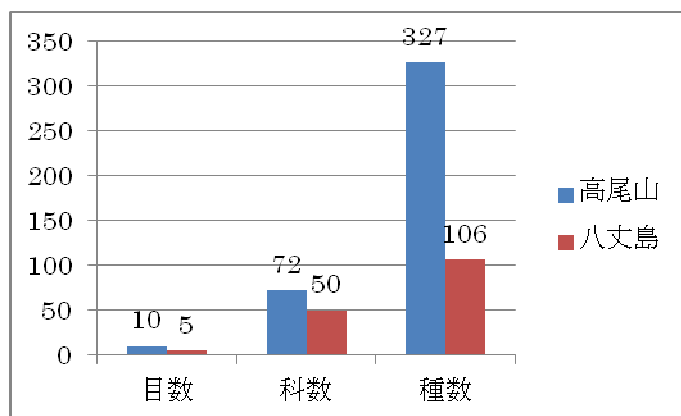
以下に、実際に標本化した昆虫類のデータを示す。

※採集・観察した種全てではない。また、今年度の採集調査では、数ミリ以下の昆虫を採集・記録することを意図的に止めていたことも述べておく。(現在の植保体制では膨大なデータを処理できないため)

			高尾山	八丈島
甲虫目	オサムシ亜目	シデムシ科	1	4
		デオキノコムシ科	9	0
		オサムシ科	22	7
	ナガヒラタムシ亜目	ナガヒラタムシ科	1	0
	カブトムシ亜目	ヒゲナガゾウムシ科	2	1
		オトシブミ科	10	0
		ミツギリゾウムシ科	1	0
		ホソクテゾウムシ科	6	0
		ゾウムシ科	14	5
		オサゾウムシ科	1	0
		エンマムシ科	2	1
		ハンミョウ科	2	0
		ゴミムシダマシ科	17	6
		ハネカクシ科	2	0
		コメツキムシ科	17	5
		カミキリ亜科	7	3
		ホソカミキリ亜科	1	0
		フトカミキリ亜科	45	0
		ハナカミキリ亜科	18	0
		ホソバコガネカミキリ亜科	3	0
		ノギリカミキリ亜科	4	6
		クロカミキリ亜科	4	1
		クビボソハムシ亜科	1	1
		カメノコハムシ亜科	2	0
		ハムシ亜科	10	3
		ヒゲナガハムシ亜科	4	2
		ノミハムシ亜科	2	3
		ナガツツハムシ亜科	0	1

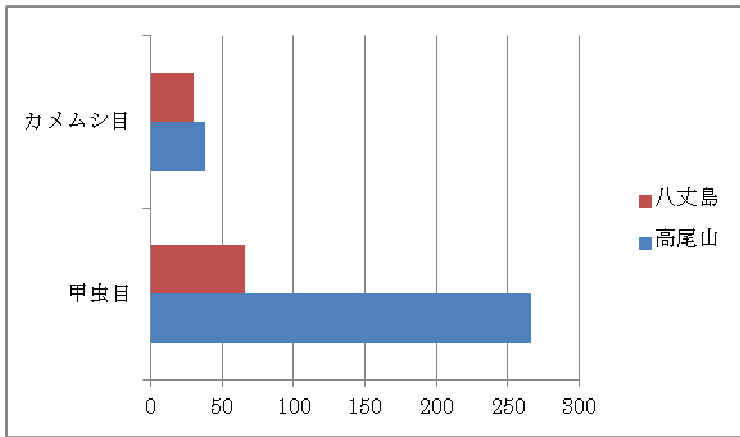
		ツツハムシ亜科	2	0
		サルハムシ亜科	0	1
		テントウムシ亜科	6	2
		マダラテントウムシ亜科	3	3
		コガネムシ亜科	1	0
		ハナムグリ亜科	3	1
		カブトムシ亜科	1	0
		コフキコガネ亜科	1	1
		スジコガネ亜科	6	1
		トラハナムグリ亜科	1	0
		ヒラタハナムグリ亜科	0	0
		カッコウムシ科	3	1
		センチコガネ科	1	0
		ホタル科	11	3
		ジョウカイボン科	12	0
		ハナムミ科	4	1
		タマムシ科	3	3
カメムシ目	カメムシ亜目	キンカメムシ科	1	0
		カメムシ科	11	1
		ヘリカメムシ科	0	5
		ホソヘリカメムシ科	0	2
		ヒメヘリカメムシ科	1	0
		イトカメムシ科	0	1
		ナガカメムシ科	0	1
		ホシカメムシ科	0	1
		オオホシカメムシ科	0	1
		マキバサシガメ科	1	0
		ツノカメムシ科	1	1
		ツチカメムシ科	2	0
		マルカメムシ科	0	1
	ヨコバイ亜目	セミ科	4	2
		アワフキムシ科	7	0
		オオヨコバイ科	0	1
		ウンカ科	0	10
		ヨコバイ科	0	1
		ツノゼミ科	0	1
		ミミズク科	3	1
		コガラシウンカ科	1	0
		マルウンカ科	2	0
		ハゴロモ科	4	0

バッタ目	バッタ亜目	バッタ科	0	2
		ノミバッタ科	1	0
		ヒシバッタ科	1	0
	キリギリス亜目	キリギリス科	0	1
		コオロギ科	0	1
		カンタン科	1	0
シミ目		シミ科	3	0
ハサミムシ目		ハサミムシ科	1	0
		オオハサミムシ科	0	1
ゴキブリ目		マダラゴキブリ科	0	2
		オオゴキブリ科	0	1
ナナフシ目		ナナフシ科	1	0
		トビナナフシ科	1	0
アミメカゲロウ目		ツノトンボ科	0	2
		カマキリモドキ科	1	0
シリアゲムシ目		シリアゲムシ科	1	0
ハチ目	ハチ亜目	セイボウ科	1	0
		ジガバチ科	1	0
		ミツバチ科	1	0
		スズメバチ科	1	0
		ヒメバチ科	2	0
		アリ科	1	0
	ハバチ亜目	キバチ科	1	0
ハエ目		ムシヒキアブ科	3	0
		アシナガバエ科	1	0

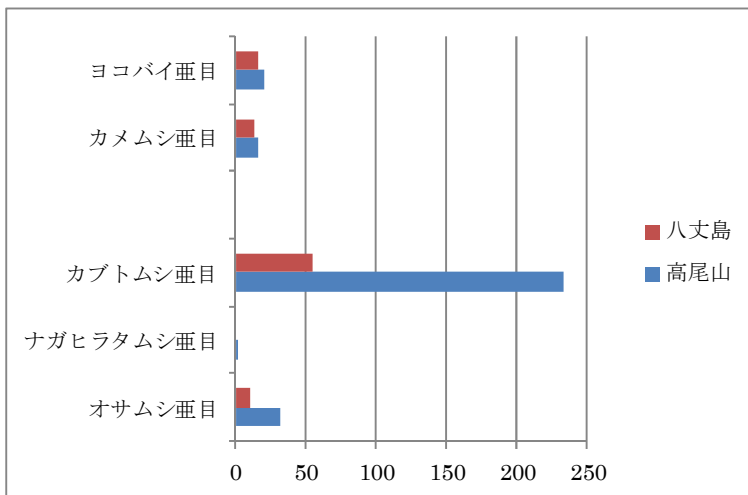


単純に、数を比較すると、二泊三日で行った八丈島では、頻繁に訪れていた高尾山の調査数の半分にも及ばない。

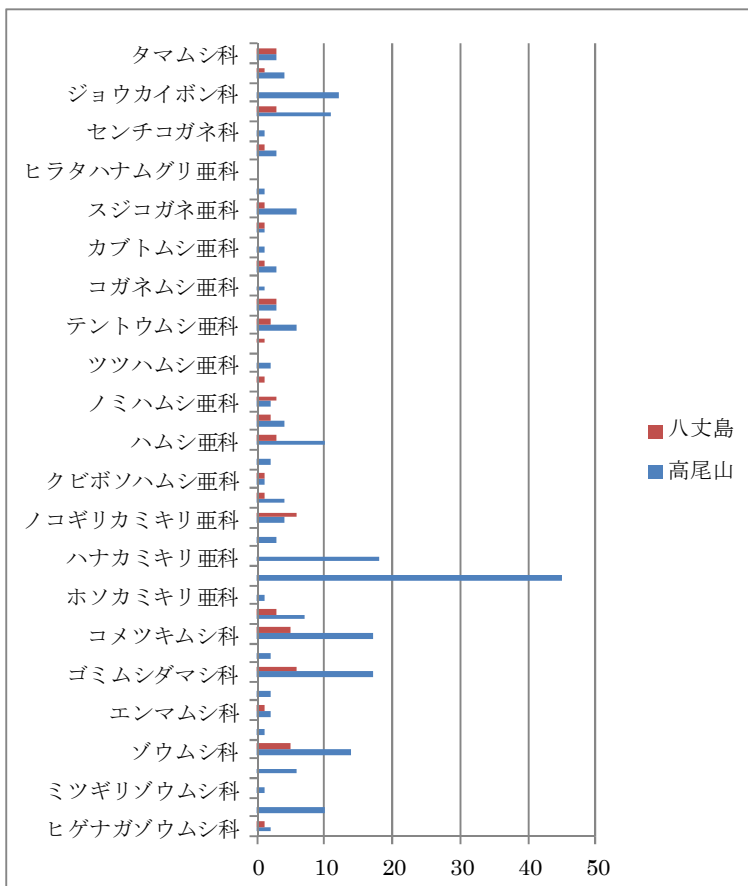
そこで、比較対象として、ある程度のサンプル数がある甲虫目とカメムシ目に注目してみる。



カメムシ目については高尾山で採集された種数と八丈島で採集された種数を比べても、大きな変化は見られない。一方、甲虫目の種数には大きな開きがみられる。



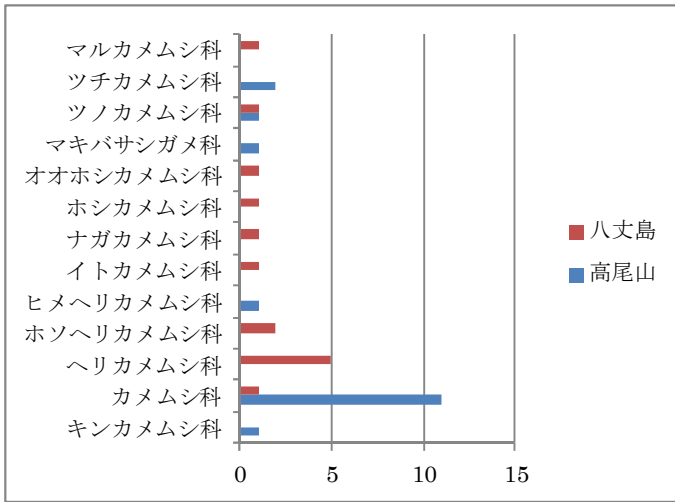
さらに、亜目まで拡大して、両地を比較してみると、やはりヨコバイ亜目・カメムシ亜目を含むカメムシ目では大きな差異は見られない。甲虫目に注目すると、カブトムシ亜目、オサムシ亜目において、種数に開きがあることが分かる。特にカブトムシ亜目において大きな開きがある。



次に科・亜科ごとの種数に注目してみる。

甲虫目の中でも、カブトムシ亜目の昆虫の種数について着目してみる。まず、一際目を引かれるのはカミキリムシの種数である。高尾山で採集した種数が八丈島のそれを大きく引き離している。次に、ゾウムシ、ジョウカイボン、ハムシ、コメツキムシ、ゴミムシダマシの仲間がそれに続く。

これらの昆虫種について言えること、特に、カミキリムシ、ゾウムシ、ハムシについて言えることであるが、特定の食草のみを食べる習性をもつものが多い。つまり、これらの種数が多いということは、その土地の植物相の豊かさを表しているのである。甲虫目の種数差だけ見ると、高尾山は八丈島に比べて植物相が豊かであると言えるだろう。



しかし、同様に特定の食草を持つ種が多いカメムシ目の種数にそれほど差異が見られないのはなぜだろうか。ヨコバイ亜目、カメムシ亜目について科に細分化してみると、高尾山と八丈島では、異なる科の種が多く存在していることが分かる。両地間では食草、つまり植物相が大きく異なるということがわかる。さらに言うと、カメムシ目の種数がさほど変わらないことから、八丈島には固有の植物相が豊富であるということも考えられる。地理的に、高尾山と八丈島は経度が異なること、八丈島は島であるといった地理的特異性がグラフに表れていると言えるだろう。

